市立釧路総合病院　看護師　クリニカルラダー

看護理念 「個人の尊重と心のこもった看護」

・患者・家族の人権を守り、最善の看護に努めます
・看護の質の向上に努め、安全で信頼される看護を目指します

2020年4月改訂

定義		レベル	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ
			ラダー	JNA版ラダー	JNA版ラダー	JNA版ラダー	JNA版ラダー
		レベル毎の定義	基本的な看護手順に従い必要に応じ助言を得て看護を実践する	標準的な看護計画に基づき自立して看護を実践する	ケアの受け手に合う個別的な看護を実践する	幅広い視野で予測的判断をもち看護を実践する	より複雑な状況において、ケアの受け手にとっての最適な手段を選択しQOLを高めるための看護を実践する
看護の核となる実践能力	ニーズをとらえる力	【レベル毎の目標】	助言を得てケアの受け手や状況(場)のニーズをとらえる	ケアの受け手や状況（場）のニーズを自らとらえる	ケアの受け手や状況(場)の特性をふまえたニーズをとらえる	ケアの受け手や状況(場)を統合しニーズをとらえる	ケアの受け手や状況(場)の関連や意味をふまえニーズをとらえる
		【行動目標】	□助言を受けながらケアの受け手に必要な身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面から必要な情報収集ができる □ケアの受け手の状況から緊急度をとらえることができる	□自立してケアの受け手に必要な身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面から必要な情報収集ができる □得られた情報をもとに、ケアの受け手の全体像としての課題をとらえることができる	□ケアの受け手に必要な身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面から個別性を踏まえ必要な情報収集ができる □得られた情報から優先度の高いニーズをとらえることができる	□予測的な状況判断のもと身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面から必要な情報収集ができる □意図的に収集した情報を統合し、ニーズをとらえることができる	□複雑な状況を把握し、ケアの受け手を取り巻く多様な状況やニーズの情報収集ができる □ケアの受け手や周囲の人々の価値観に応じた判断ができる
		【実践例】	■患者の状態に合わせて助言をうけながら観察をし、基本的なフィジカルアセスメントを行える ■スピリチュアルな側面については、治療についての考え方の情報を得ることができる ■致死的不整脈や意識障害など生命の危機に関わる緊急性のある異常を発見できる	■自立して患者の状態に合わせてフィジカルアセスメントを行なうことができる ■診療記録など決められた枠組み(ニードの14項目）沿って、多職種から情報収集を行なうことができる ■自立して患者と関わり、情報収集をもとに顕在化している身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面を関連づけて患者の問題をとらえることができる	■多職種からも情報を収集し、生活習慣など相手の生活を細部までとらえることができる ■患者・家族（または患者にとっての重要他者）の希望もふまえて、入院生活や退院調整に必要な情報を得ることができる ■患者の訴える症状に対して、原因として、患者の体内で起こっている現象を考えながら正確なフィジカルアセスメントができる ■情報収集を元に、身体的・精神的・スピリチュアルな側面のあらゆる情報から総合的に患者を把握し、優先度の高いニーズをとらえる事ができる ■患者の状態に合わせて必要に応じて観察項目を追加したり、異常値の出現時に対応ができる。	■疾患の予後と治療による影響や退院後の生活を予測できる ■患者の家庭での役割、仕事の内容、疾患に対するニーズをとらえることができる ■患者が訴える症状に対して、患者の体内で起こっている現象を考えながら意図的に観察し、アセスメントできる	■複雑な状況や多様なニーズをとらえ、必要な介入を判断できる ■患者を取り巻く多様な人々がもつ情報を理解し患者・家族（または患者にとっての重要他者）の価値観とすりあわせ、多角的な側面からニーズをとらえることができる ■地域全体へ視野を広げ、ニーズに対して不足している機能に気づき、他施設等へ働きかけることで解決を図ることができる
	ケアする力	【レベル毎の目標】	助言を得ながら、安全な看護を実践する	ケアの受け手や状況(場)に応じた看護を実践する	ケアの受け手や状況（場）の特性をふまえた看護を実践する	様々な技術を選択・応用し看護を実践する	最新の知見を取り入れた創造的な看護を実践する
		【行動目標】	□指導を受けながら看護手順に沿ったケアが実施できる □指導を受けながら、ケアの受け手に基本的援助ができる □看護手順やガイドラインに沿って、基本的看護技術を用いて看護援助ができる	□ケアの受け手の個別性を考慮しつつ標準的な看護計画に基づきケアを実践できる □ケアの受け手に対してケアを実践する際に必要な情報を得ることができる □ケアの受け手の状況に応じた援助ができる	□ケアの受け手の個別性に合わせて、適切なケアを実践できる □ケアの受け手の顕在的・潜在的ニーズを察知しケアの方法に工夫ができる □ケアの受け手の個別性をとらえ、看護実践に反映ができる	□ケアの受け手の顕在的・潜在的なニーズに応えるため、幅広い選択肢の中から適切なケアを実践できる □幅広い視野でケアの受け手をとらえ、起こりうる課題や問題に対して予測的および予防的に看護実践ができる	□ケアの受け手の複雑なニーズに対応するためあらゆる知見（看護および看護以外の分野）を動員し、ケアを実践・評価・追求できる □複雑な問題をアセスメントし、最適な看護を選択できる
		【実践例】	■患者の状態に合わせて助言を受けながら手順をもとに患者に説明とケアを実施できる ■患者に対して基本的生活援助を行うことができる ■重症患者や医療度の高い患者については指導を受けて実施できる ■基本的看護技術は看護技術チェックリストに基づいて到達目標が達成できる ■急変時には、指示を受けながらメモをとる、バイタルサインを確認するなど、できることを探して実施できる	■患者の情報から標準的な看護計画を追加・修正し、自立してケアを実践できる ■重症患者や医療依存度の高い患者に対しても自立してケアを実践できる ■患者に対してケアを実施する際には、必要に応じて時間調整や疼痛コントロールを行なってからケアを実践できる ■患者に対して指導する場合、一般的な内容について網羅して説明することができる ■急変時には、指示されたケアを責任をもって実践できる	■患者の入院前からの習慣についての情報を考慮した生活行動援助を計画・実施できる ■患者に対して指導をする場合、患者の生活習慣や価値観、希望などを考慮して説明することができる ■患者のニーズを的確にとらえ、複数の受け持ち患者の優先順位を正しく判断し、ケアを実践できる ■急変時には落ち着いて対応し、家族（または患者にとっての重要他者）等に配慮することができる	■疾患の予後と治療による影響と患者の生活を考慮し、幅広い選択肢の中から適切なケアを提案・実践できる ■患者に対して指導をする場合、予測的な視野を持ちながら、患者の反応に応じて段階的に説明することができる ■患者の生活習慣や価値観等、希望を考慮して、幅広い知識から様々な手段を提案できる ■急変時には、原因や今後の展開を予測しながら、患者・家族（または患者にとっての重要他者）への対応と今後への準備ができる	■複雑な状況下であっても最適なケアを提供できる ■コミュニケーション能力を発揮し患者に最適な対応ができる ■ケアの開発のため努力を継続して行なうことができる ■疾患の予後と治療による影響により患者の希望に沿った生活が困難な状況であっても、希望や価値観、尊厳を尊重し、新たな生活の可能性を広げるケアを提案できる ■急変時には複雑な病態の患者においても患者・家族（または患者にとっての重要他者）への対応と今後への準備ができる
	協働する力	【レベル毎の目標】	関係者と情報共有ができる	看護の展開に必要な関係者を特定し、情報交換ができる	ケアの受け手やその関係者、多職種と連携ができる	ケアの受け手を取り巻く多職種の力を調整し連携できる	ケアの受け手の複雑なニーズに対応できるように、多職種の力を引き出し連携に活かす
		【行動目標】	□助言を受けながらケアの受け手を看護していくために必要な情報が何かを考え、その情報を関係者と共有することができる □助言を受けながらチームの一員としての役割を理解できる □助言を受けながらケアに必要と判断した情報を関係者から収集することができる □ケアの受け手を取り巻く関係者の多様な価値観を理解できる □連絡・報告・相談ができる	□ケアの受け手を取り巻く関係者の立場や役割の違いを理解したうえで、それぞれと積極的に情報交換ができる □関係者と密にコミュニケーションを取ることができる □看護の展開に必要な関係者を特定できる □看護の方向性や関係者の状況を把握し、情報交換できる	□ケアの受け手の個別的なニーズに対応するために、その関係者と協力し合いながら多職種連携を進めていくことができる □ケアの受け手とケアについて意見交換できる □積極的に多職種に働きかけ、協力を求めることができる	□ケアの受け手がおかれている状況（場）を広くとらえ、結果を予測しながら多職種連携の必要性を見極め、主体的に多職種と協力し合うことができる □多職種間の連携が機能するように調整できる □多職種の活力を維持・向上させる関わりができる	□複雑な状況（場）の中で見えにくくなっているケアの受け手のニーズに適切に対応するために、自律的な判断のもと関係者に積極的に働きかけることができる □多職種連携が十分に機能するよう、その調整的役割を担うことができる □関係者、多職種間の中心的役割を担うことができる □目標に向かって多職種の活力を引き出すことができる
		【実践例】	■自らのもつ情報を他の看護師に連絡し、患者の状態について報告できる ■判断できないことや経験のない処置やケアについては相談する ■多職種（医師・看護師・薬剤師・栄養士・理学療法士・ケースワーカーなど）の役割を理解できる ■カンファレンスに参加し発言することで自らの持つ情報を提供して関係者と共有できる	■患者の状況を把握し、必要に応じて多職種の協力の必要性に気づくことができる ■患者の疾患の状況、検査結果、治療方針を担当医と確認し、患者の訴えや受け止めている思いを医師へ伝える また、看護チームへ情報提供し、看護の方針を確認できる。 ■カンファレンスで患者の思いや希望等の必要な情報を共有できる	■患者の個別的なニーズに対応するため、関係者と協力し多職種連携を進める事ができる ■入院時から、退院後の生活場所（在宅、回復期リハビリ病棟、高齢者介護施設等）について、多職種に提案する等の調整ができる ■協働する看護師に積極的に情報共有できる ■治療方針や検査結果、ケアの内容を多職種で共有し意見を聞くことができる ■定期的なカンファレンスだけでなく、必要なタイミングを見極めてカンファレンスを開催する ■患者や家族（または患者にとっての重要他者）が治療に協力できる工夫を行うために、カンファレンスに参加できるように働きかけることができる	■社会制度を理解し、調整できる ■多職種と連携し退院支援や訪問看護など病院内外での調整ができる ■多職種間の連携においては、各職種が役割を効果的に発揮できるよう連携することができる ■カンファレンスで、ファシリテートできる ■患者に起こりうる課題を予測し、専門・認定看護師などの専門家の関わりを提案し調整できる	■連携にあたっては、各職種が役割を効果的に発揮できるようチームの目標を共有し連携を促進できる ■カンファレンスでは中心となって各職種を尊重しながら、問題解決へ導くことができる ■看護チーム内では、看護師が役割を効果的に発揮できるよう調整を行うことができる ■多職種との連携において、病院内だけでなく、病院外との複雑な調整ができる ■自施設に不足している機能に気付き補完するために資源を活用できる
	意思決定を支える力	【レベル毎の目標】	ケアの受け手や周囲の人々の意向を知る	ケアの受け手や周囲の人々の意向を看護に活かすことができる	ケアの受け手や周囲の人々に意思決定に必要な情報提供や場の設定ができる	ケアの受け手や周囲の人々の意思決定に伴うゆらぎを共有でき、選択を尊重できる	複雑な意思決定プロセスにおいて、多職種も含めた調整的役割を担うことができる
		【行動目標】	□助言を受けながらケアの受け手や周囲の人々の思いや考え、希望を知ることができる	□ケアの受け手や周囲の人々の思いや考え、希望を意図的に確認することができる □確認した思いや考え、希望をケアに関連づけることができる	□ケアの受け手や周囲の人々の意思決定に必要な情報を提供できる □ケアの受け手や周囲の人々の意向の違いが理解できる □ケアの受け手や周囲の人々の意向の違いを多職種	□ケアの受け手や周囲の人々の意思決定プロセスに看護職の立場で参加し、適切な看護ケアを実践できる	□適切な資源を積極的に活用し、ケアの受け手や周囲の人々の意思決定プロセスを支援できる □法的および文化的配慮など多方面からケアの受け手や周囲の人々を擁護した意思決定プロセスを支援できる
		【実践例】	■助言を受けながら、患者や家族の不安を推察し、思いを聞く必要性に気づくことができる ■思いの表出を促すことはできなくとも、頻回に訪室して患者と家族に寄り添うことができる ■患者や家族の思いや考え、希望を多職種に伝えることができる	■患者や家族（または患者にとっての重要他者）の思いや考え、希望を意図的に確認できる ■患者や家族（または患者にとっての重要他者）の思いや考え、希望をケアに反映させることができる ■説明に対する患者や家族（または患者にとっての重要他者）の認識と医療者の認識とのずれに気づき、リーダーや他のスタッフに相談し調整できる。	■療養の場や治療・検査について、選択肢の特徴が説明でき、患者や家族（または患者にとっての重要他者）に提案するなどして意思決定を支えることができる ■患者と家族（または患者にとっての重要他者）にとって何が大事なのかという価値観、生き方、意向を引き出し、それぞれの気持ちを聞くことができる ■患者と家族（または患者にとっての重要他者）の意向が異なる場合においても、両者の思いや現在ある状況を多職種に代弁することができる ■患者と家族（または患者にとっての重要他者）がそれぞれ個人の中にもつ複数の思いや気持ち、価値観に寄り添うことができる ■患者の訴えを表面的に受け止めず、思い込みではない判断ができる	■患者・家族（または患者にとっての重要他者）の気持ちを引き出したり、自ら決定できたり考えられるように積極的に関わることができる ■看護職の立場で、様々な案を提示することで意思決定プロセスを促進させることができる ■患者・家族（または患者にとっての重要他者）、医療スタッフの意向が異なる場合において、意向の違いの原因をとらえ、カンファレンスを開催し調整できる ■複雑な意思決定場面において、患者と家族（または患者にとっての重要他者）を尊重し、ゆらぎに寄り添い支えることができる	■患者・家族（または患者にとっての重要他者）が自ら決定できたり考えられるように意図的に医療チームを動かし意思決定プロセスを支援できる ■患者・家族（または患者にとっての重要他者）の思いは日々変化していることを念頭に多角的な視点から患者・家族を尊重し寄り添うことができる ■複雑な意思決定場面において、患者の尊厳を尊重した意思決定のために適切な資源を積極的に活用し調整できる
組織的役割遂行能力		【レベル毎の目標】	指導を受けながら看護チームのメンバーとしての役割や係活動の役割を果たすことができる	自主的に看護チームのメンバーとしての役割や係活動の役割を果たすことができる	率先して看護チームのリーダーとしての役割や係活動の役割を果たすことができる	多職種を含むチームの中で、専門的能力を要する役割を果たし、チーム内での指導的役割も担うことができる	所属を超え、看護部や病院から求められている役割を遂行できる。看護単位の課題に対し具体的解決を提案できる
		【行動目標】	□指導を受けながら、看護チームの目的自己の役割を理解し行動できる □指導を受けながら部署の係活動を理解し参加できる	□看護チームの目的・自己の役割を理解し、メンバーとして責任のある行動がとれる □自立して部署の係活動ができる	□看護チームのリーダーの役割や責任を理解しリーダーシップを発揮できる □院内の係及びリンクナース活動に参画できる	□部署内で積極的に問題提起と解決策を考えることができる □他職種を含むチームの中で、よりよい看護ケアを行うためのリーダーシップを発揮できる	□看護部、病院組織における自己の役割を理解し自ら行動することができる □看護の質の向上に向けた、院内の組織横断的活動ができる
		【実践例】	■指導を受けながら、チームメンバーとして日々の看護を実践できる ■係活動に参加し、指導者と一緒に実施できる	■優先度を考えて行動し、多重課題を処理できる ■部署で担当する係活動を責任もって実施できる	■部署のチームワークを高め、同僚・他職種と連携した行動がとれる ■部署内の問題解決に向けて、係の担当及びリンクナースとして中心となり活動できる	■部署内の課題に目を向け専門員や課長補佐と協力して取り組むことができる ■インシデントや超過勤務などに目を向け、原因検索や業務改善などの行動がとれる	■課題解決に向けて、院外・他施設と連携できる
自己教育・研究能力		【レベル毎の目標】	助言を受けながら自己の教育的課題を導き出すことができる	自己の教育的課題を達成するために自ら学習をすることができる	自己の教育的課題の達成に向けて積極的に取り組むとともに新人や看護学生に対する指導的役割を実践することができる	自己のキャリア開発に関して目指す方向に向けて主体的学習に取り組み、後輩のロールモデルとなることができる	単独で専門領域や高度な看護技術等についての自己教育活動を展開することができる。主となり研究活動を実践できる。看護単位における教育的役割がとれる
		【行動目標】	□集合研修においてプロセスレコードを1事例完成させ、患者との関わりを振り返ることができる □看護基礎教育で学んだ知識を活かしながら、部署で必要とされる知識を深めることができる	□集合研修においてケースレポートを作成し、指導を受けながら研究的視点でまとめることができる □部署で必要とされる分野の学習を継続して行うことができる	□自己の取り組むべき課題を見極めることができる □院内外の研修などに主体的に参加し、自己のスキルアップを図ることができる	□他者に対する教育において、自立して指導的な役割を実践することができる □自己の教育的課題に目を向け、学会や研修会などの参加を通して、自ら積極的に学習することができる □研究の成果を日常の看護に活かすことができる	□メンバーの看護研究をサポートし、自らも積極的に看護研究発表ができる □自己のキャリアをふまえた課題を明確にし、積極的に学習を進めることができる
		【実践例】	■プロセスレコードを決められた期間内に提出できる ■指導を受けながら、部署で必要とされる知識を自己学習することができる	■まとめたケースレポートを部署内で発表できる ■e-ラーニングの活用や自主研修による自己学習の習慣をつけることができる	■当院のクリニカルラダーを理解し、教育的課題を見いだすことができる ■積極的に院内外の研修に参加し、知識を深めることができる ■主体的に研究活動に参加して、指導を受けながら1事例まとめる事ができる	■研究をまとめるスタッフに対して、アドバイスができる ■主体的に研究活動に参加して、1事例をまとめることができる	■看護部 の教育的課題やキャリアアップをふまえたサポートができる ■専門領域の看護研究に取り組み指導できる ■看護研究の院外発表ができる